

みんなで作る大芝高原の森林

大芝高原の森林は、村民のみなさんの手によって育てられた、村民共通の財産です。これまで多くの方々が関わって森林がつくられてきたように、今後の森林づくりにおいても村民のみなさんが参加・協力して取り組むことが重要です。

本計画を実施することにより、様々な世代の方が大芝高原の森林とつながることができる環境を整備し、村民のみなさんとともに、「守り・育てる」新たな大芝高原の森林づくりを進めていきます。

大芝高原森林づくり実施計画本編は
こちらのWebサイトからご覧ください



令和7年3月 発行
南箕輪村 観光森林課

大芝高原森林づくり実施計画

2024 ▶ 2030

概要版



計画理念

～ 大芝高原いやしの森 いつもいつまでも ～

大芝高原森づくり憲章

大芝高原の森は、100年以上前から先人たちが後世のために育ててきた
全国屈指の平地林で、かけがえのない村民の財産です。

- 多様な動植物がにぎわい、豊かな自然を感じられる森。
- 四季折々の美しい景色で、暮らしに彩りを与えてくれる森。
- いつも安全・快適で、みんなの笑顔があつまる森。

みんなにとって魅力あふれる「いやしの森」を後世に引き継いでいくため、
私たちは次のとおり行動します。

- 私たちは、松枯れという困難を乗り越え、
多様で健全で持続可能な森をつくります。
- 私たちは、森の魅力を引き出し、活かし、
みんなの幸せな暮らしをつくります。
- 私たちは、ふるさとの自然について学び、
みんなで森を支えていける地域社会をつくります。



南箕輪村
イメージキャラクター
まっくん

計画策定の背景

明治28年(1895年)に南箕輪村尋常小学校の福澤桃十先生が植林を推奨し、10haに約1万本のコナラを植林したことが、大芝高原の森林の始まりでした。先人たちの努力により、アカマツ、ヒノキなどが植林、保育、保全され、現在の大芝高原は、全国でも稀な大径アカマツの平地林となっています。しかし、大芝高原のシンボルであるアカマツは、松くい虫による被害拡大と遷移の進行によって衰退しており、早ければ令和17年(2035年)までに衰退・消滅する可能性が予測されています。放置すれば松くい虫の蔓延につながり、枯損した木の倒木や落枝によって大芝高原の利用者のみなさんに被害を発生させてしまう恐れがあります。



大芝高原の森林 ～多様な森～

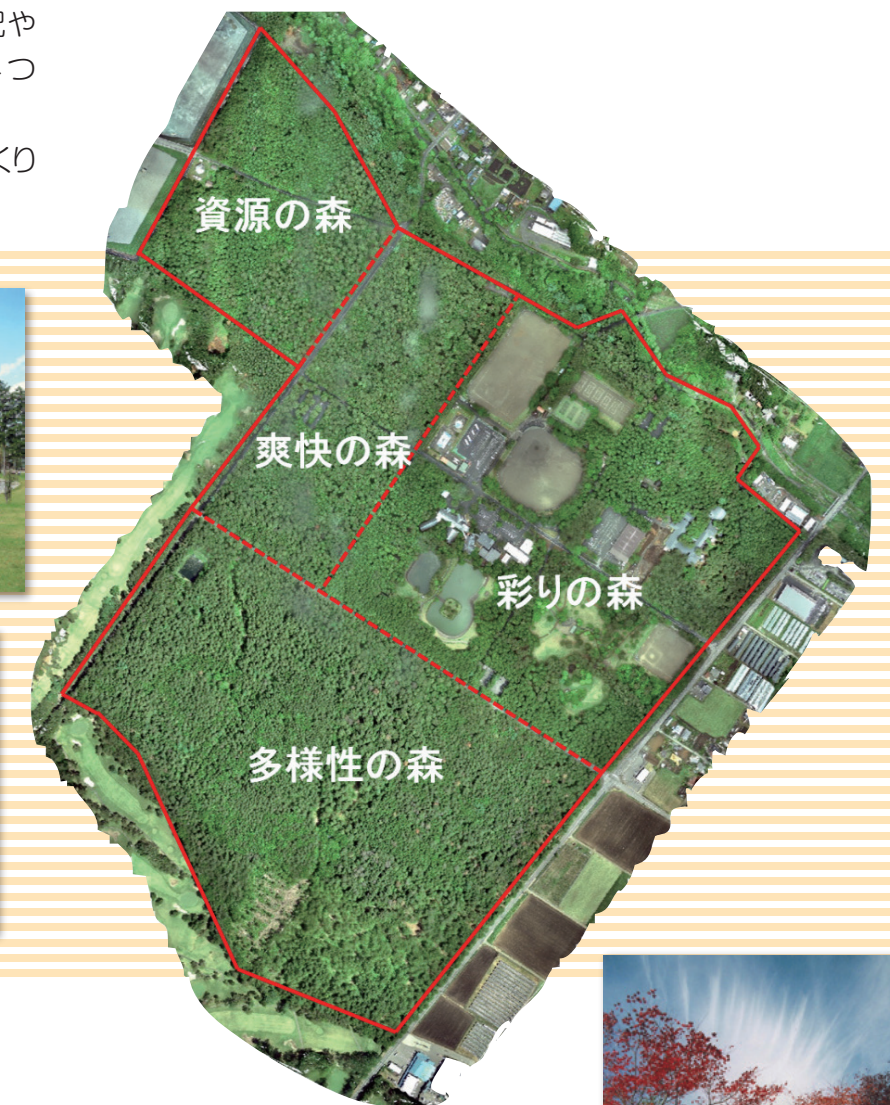
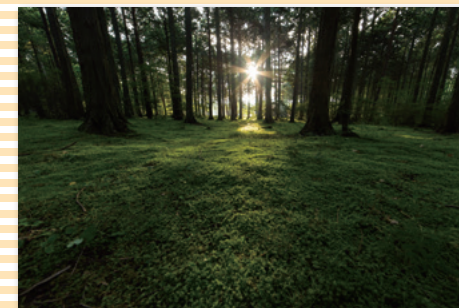
大芝高原の森林は、とても貴重な平地林で、多くの人たちが保健・レクリエーションとして利用している特徴があります。また、身近な存在であることから村民のみなさんの快適な環境形成の役割や景観を形づくる文化的・教育的機能も有しています。さらに、二酸化炭素を吸収し地球温暖化に貢献する機能や生物多様性といった重要な役割も担っています。大芝高原の森林は、これらの機能を活かした「多様な森」を目指した森づくりを行います。

こうした現状から、村民や利用者が主体の大芝高原森林づくり協議会を設置し、村民アンケートや現地検討会等も行いながら検討を重ね、大芝高原の新たな森づくりを推進するため令和6年12月に「大芝高原森林づくり実施計画(以下「実施計画」)」を策定しました。

ニーズに合った森づくり

実施計画では、施設の利用状況や森林の現状から大芝高原全体を4つのゾーンにわけました。

それぞれのニーズに合った森づくりを実施します。



目指す森の姿

多様性の森

自然を感じられる森林で、施設や構造物が少ないゾーン

➡ 樹種・生物・空間に多様性がある森林を目標とします。

爽快の森

マレットゴルフ場とアスレチック広場があるゾーン

➡ 利用者のみなさんが快適・爽快に利用していただける森林を目標とします。

彩りの森

キャンプ場、温泉施設、味工房、大芝湖、多目的広場など公園的要素が強く、不特定多数の方が利用するゾーン

➡ 安全で、憩い・修景に優れた彩りのある森を目標とします。

資源の森

主たる利用者の動線から離れた区域であり、一般利用がない森林。

※ 詳細は次期計画策定時に具体的な議論を行い、計画に反映します。

森林整備方針

安全確保を最優先

利用者の安全確保を最優先とします。まず主要な車道沿いと歩道沿いの伐採を実施し、施設等の利用状況から優先度を決めて面的整備を実施します。

アカマツ

アカマツは計画的に伐採を行いますが、多目的広場や大芝湖の周辺、中央（道の駅周辺）については、優勢であるアカマツ（松くい虫被害が近くでない・他の樹木と競合していない）はシンボルツリーとして残します。



天然更新と植栽

アカマツ伐採前から林内に存在する小さく若い樹木を生かした天然更新による森づくりを行います。植栽は、施設の利用環境や森林環境に応じて実施します。植栽する樹種は現存するものを中心に選び、外来種や大芝公園の立地（気候・土壌条件）に適さない樹種は選定しません。

令和12年（2030年）までの実施計画

シンボルツリーの保残・管理

シンボルツリーとして保残するアカマツの選木を行います。その後は継続して監視を続けます。ただし、選木したアカマツに松枯れが発生した場合は速やかに伐倒処理を行います。

アカマツ伐採・植栽

安全確保を優先すべき道路沿いの区画の伐採を実施します。その後、優先度の高い面的な整備を行います。松枯れ被害等の森林状況や村の情勢変化により、計画が前後する場合があります。

アカマツ伐採エリア

令和 6年度	マレットゴルフ場及びアスレチック広場の車道沿い
令和 7年度	みんなの森車道沿い
令和 8年度	キャンプ場
令和 9年度	大芝の湯周辺及びアスレチック広場
令和10年度	アスレチック広場
令和11年度	アスレチック広場及びマレットゴルフ場
令和12年度	マレットゴルフ場

アカマツ伐採後の状況を確認し、必要に応じて植栽・保育作業を実施します。

「多様性の森」セラピーロード

「多様性の森」のセラピーロード沿いは、アカマツ枯死木の除去、倒木・落枝危険木の除去及び視界確保のための林内整理伐を継続的に実施します。面的整備は、令和12年（2030年）実施計画後に実施します。

令和12年（2030年）までのアカマツ伐採計画図



施策体系図

計画理念を実現するために村が取り組む施策をまとめました。

